

福岡市環境局循環型社会推進部 御中

食品ロスダイアリーアプリ 集計レポート

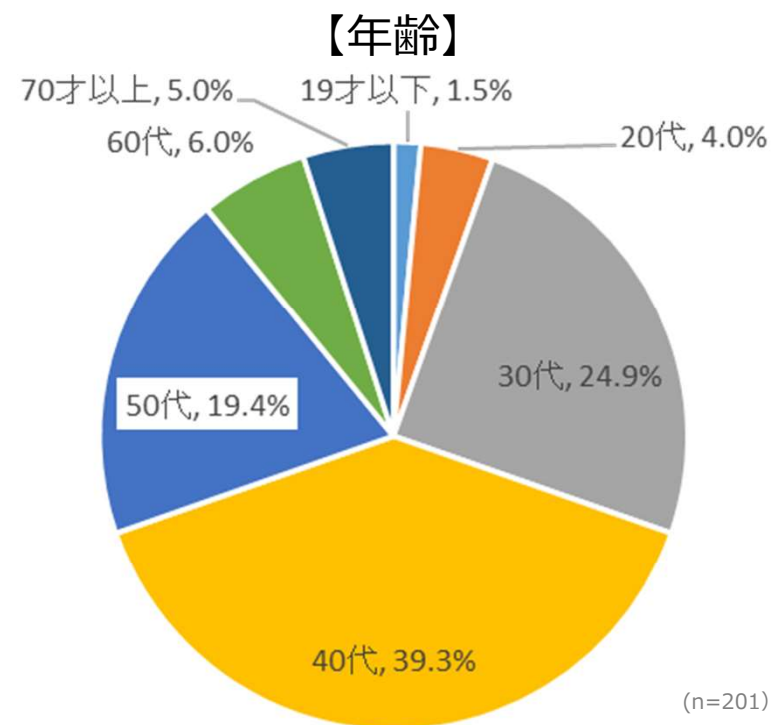
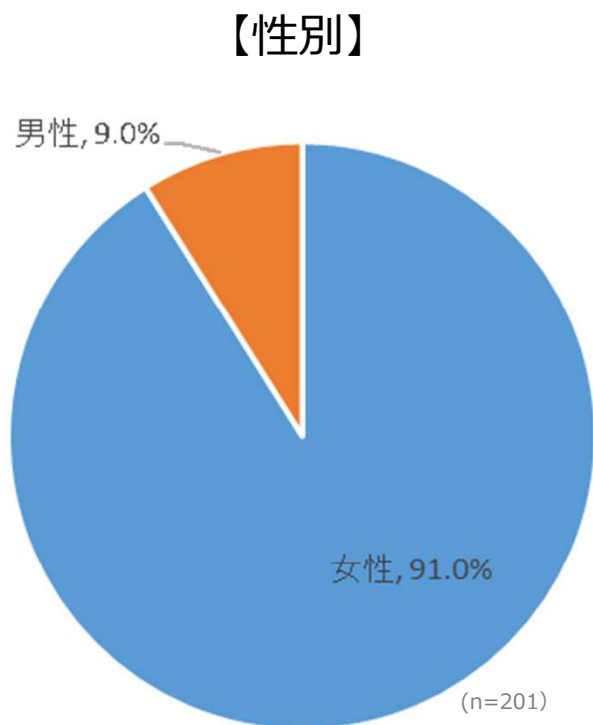
特定非営利活動法人ごみじゃぱん

2023年3月

1.対象者属性 (1) 性別・年齢

- 性別は、女性が91%を占めた。
- 年齢は、40代※39.3%、30代※24.9%、50代19.4%で全体の8割を超えている。

※対象者募集媒体で市立小学校4年生でのチラシ配布（約16,000部）があり、30・40代の比率が高いことに影響していると考えられる。



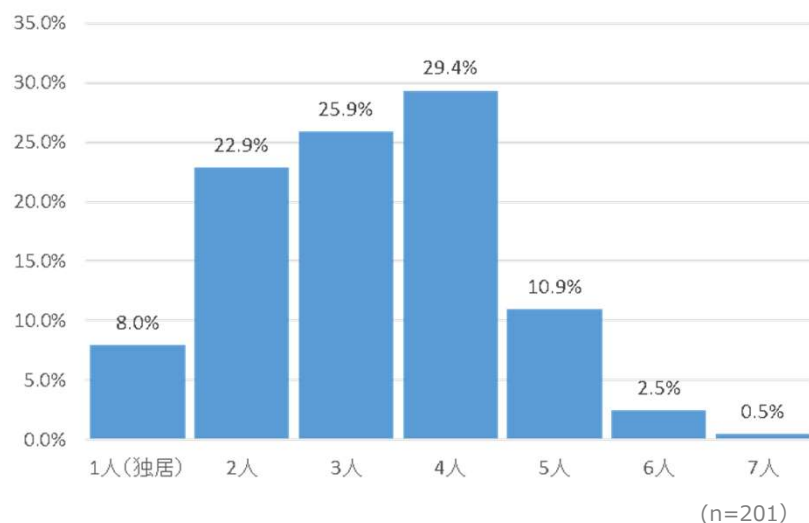
(2) 同居家族数・同居家族内訳

- 同居家族数（本人を含む）は「4人」が29.4%と最も高く、以下「3人」25.9%、「2人」22.9%、「1人（独居）」が8.0%。
- 同居家族に、小学生がいる世帯は49.3%※1、未就学児は26.4%、中高生は19.9%、高齢者※2は14.9%であった。

※1 対象者募集媒体で市立小学校4年生でのチラシ配布（約16,000部）があり、小学生がいる世帯比率が高いことに影響していると考えられる。

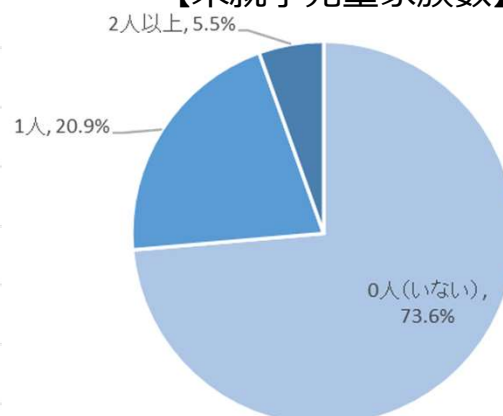
※2 当調査では高齢者は65才以上と定義した。

【同居家族数】

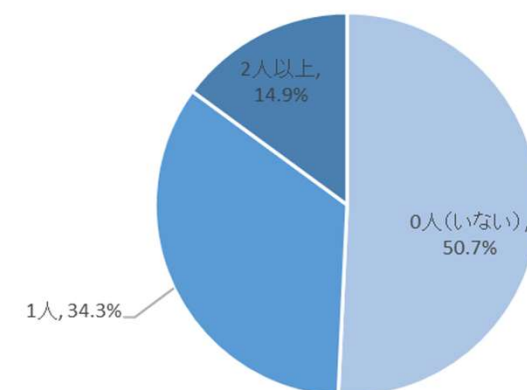


【同居家族内訳】

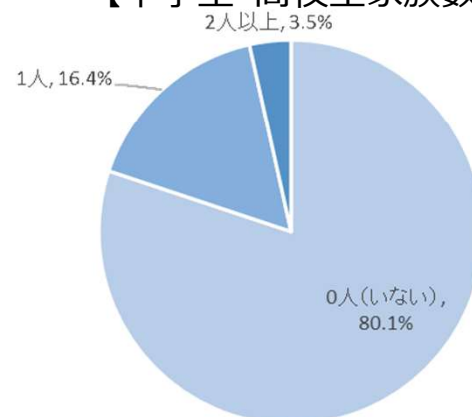
【未就学児童家族数】



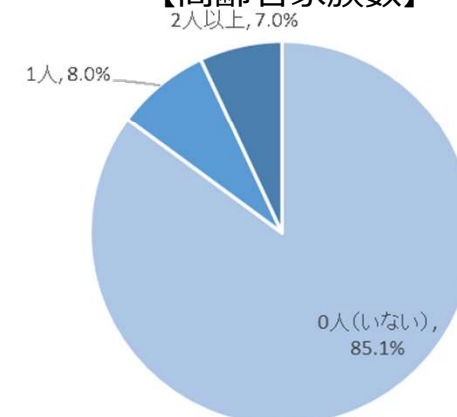
【小学生家族数】



【中学生・高校生家族数】

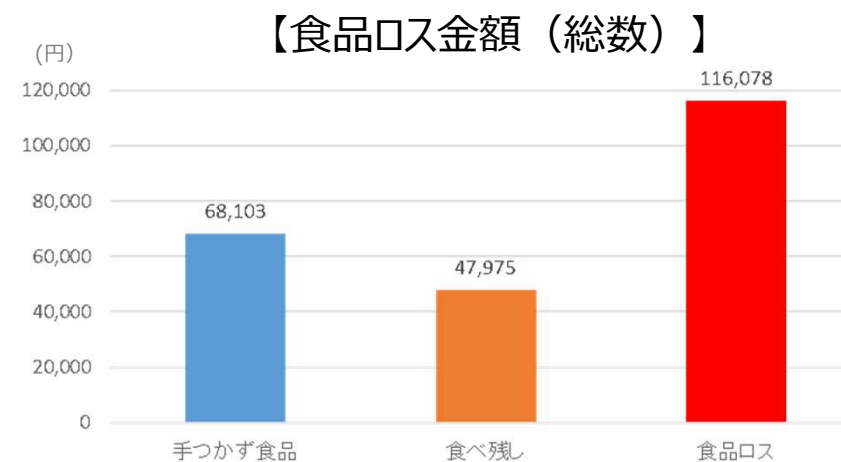
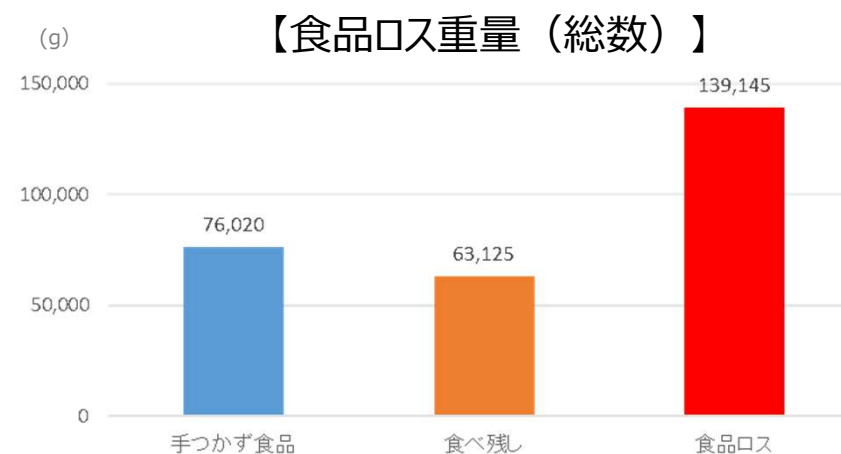
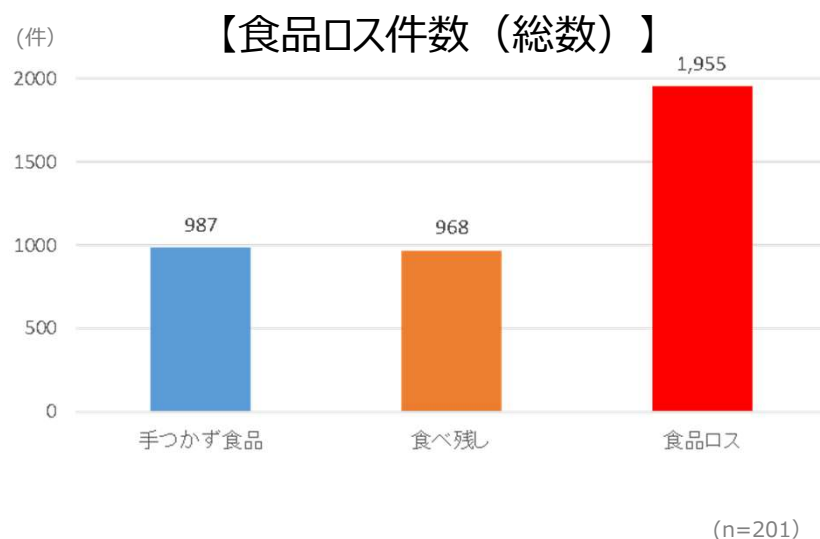


【高齢者家族数】



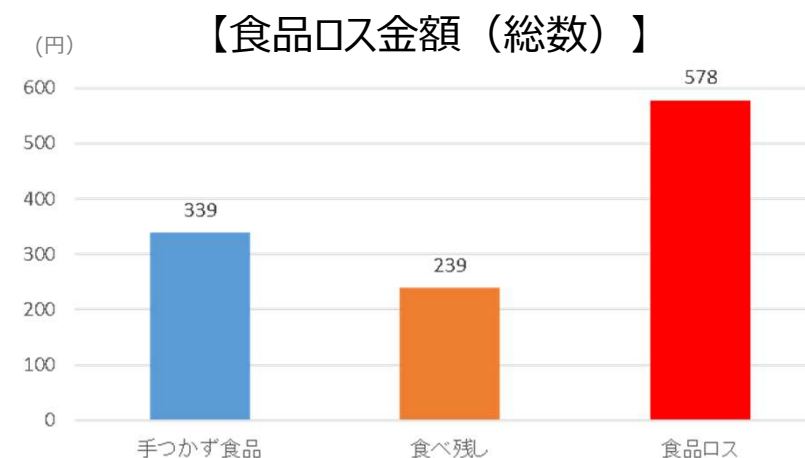
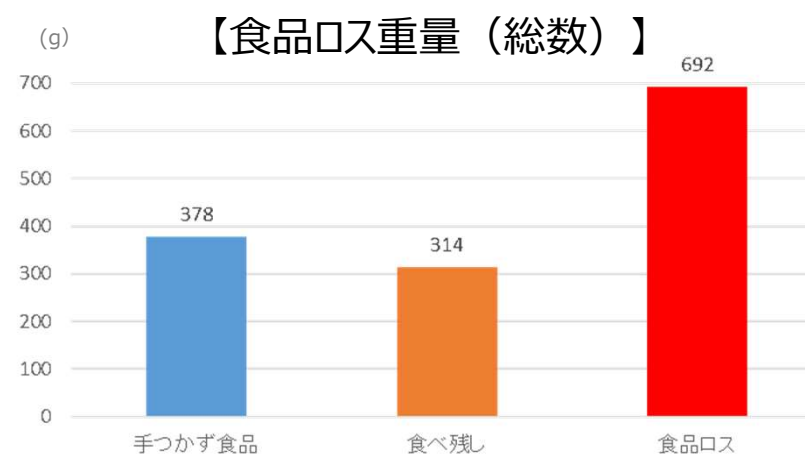
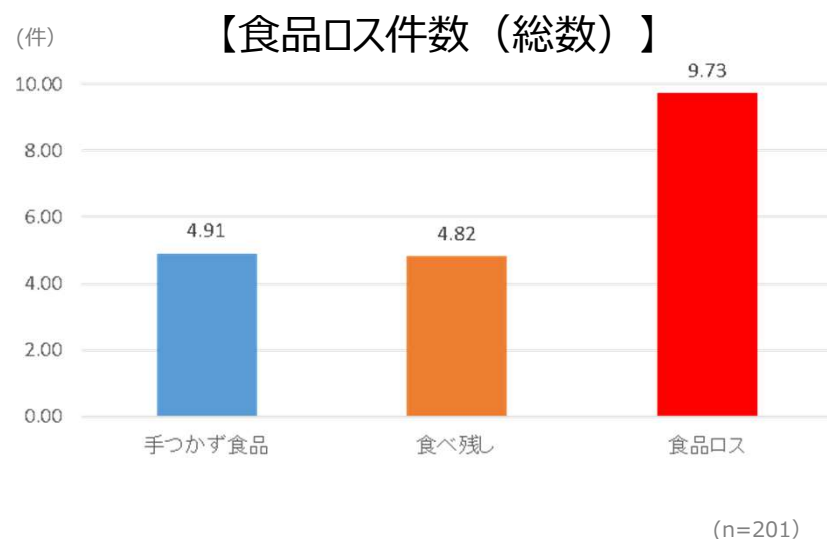
2.期間中の食品ロス排出量 (1)総数

- 1 カ月間の食品ロス排出量は、件数では手つかず食品987件、食べ残し968件と食品ロス合計で1,955件であった。
- 重量では、手つかず食品が約76kg、食べ残しが約63kgで、合計約139kgであった。



(2) 1世帯あたり平均

- 1カ月間の1世帯あたりの食品ロス排出量は、件数で約10件、重量で0.7kg、金額換算※で578円であった。
- 件数、重量、金額いずれも手つかず食品の方が食べ残しをやや上回った。



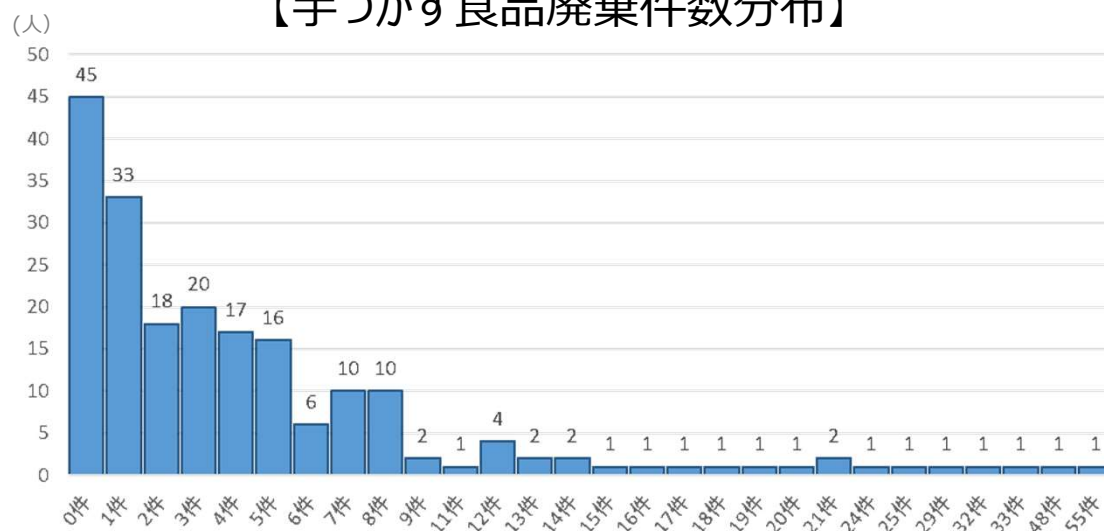
※総務省統計局実施の「小売物価統計調査」をベースとして神戸市内の流通店舗での実地調査での補正を行い、食品ロスダイアリーアプリで記録対象の115品目の価格リストを作成、廃棄記録の重量に乗じて金額を算出している。食べ残しに関しては、農水省食料需給表の供給重量（材料ベース）と家計調査、平均世帯人数などから算出したg当たり単価を重量に乗じて金額を算出している。

(3) 手つかず食品廃棄件数・重量分布

- 手つかず食品廃棄件数分布は、「0件」が45人で最も多く、件数が増えるほど減る傾向。最多廃棄は「55件」※であった。
- 重量では、「0より多く250g未満」が72人と最も多くなっており、概ね重量が増えるほど漸減していく傾向。

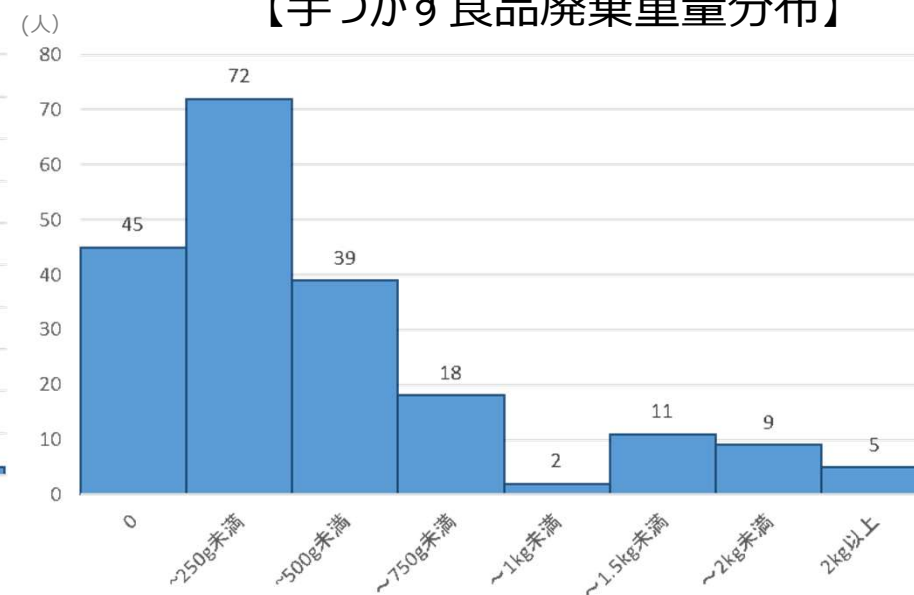
※55件の廃棄内容では、43件が生鮮野菜のうち17件が10g以下である。キャベツの外葉や玉ねぎ、じゃがいもの皮、キュウリのヘタなどの除去を記載している可能性があることは否めない。30件以上の大量排出者は同様の傾向。

【手つかず食品廃棄件数分布】



(n=201)

【手つかず食品廃棄重量分布】



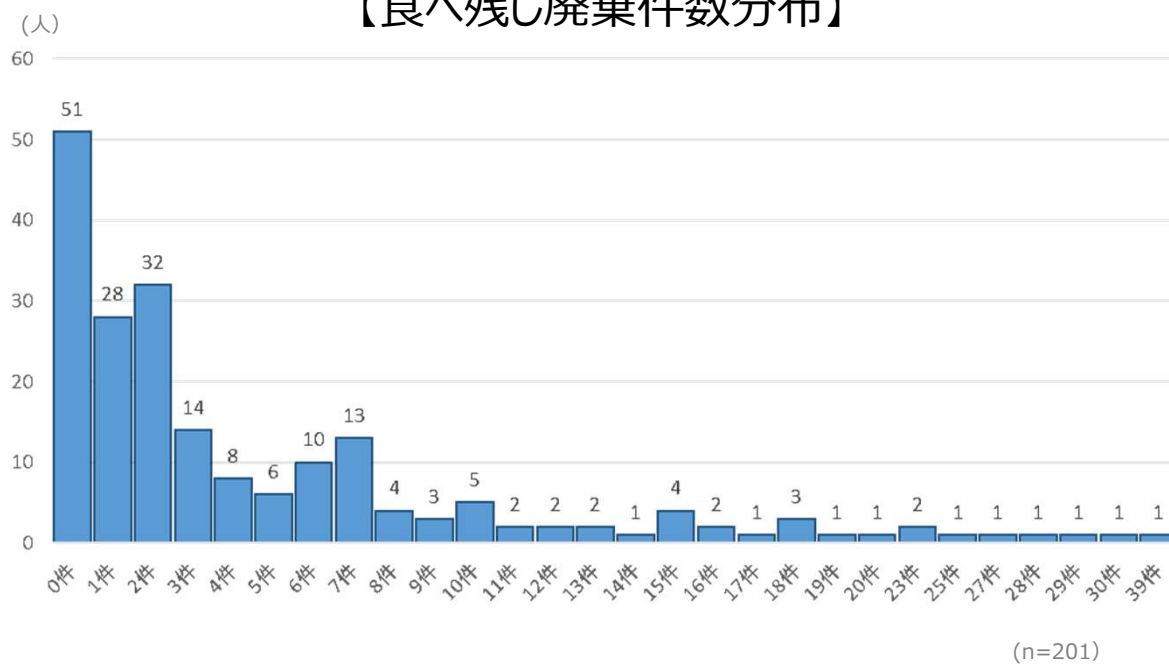
(n=201)

(4) 食べ残し廃棄件数・重量分布

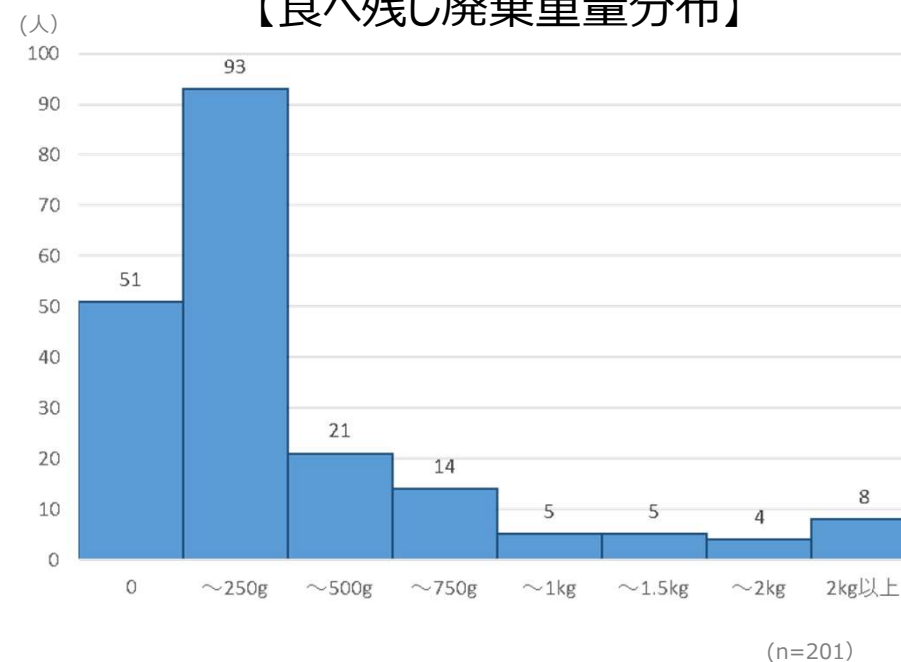
- 食べ残し廃棄件数分布は、「0件（食べ残し廃棄はなかった）」が51人、「2件」が32人、「1件」が28人で、最も多く廃棄した人は「39件」※であった。
- 重量では、「0より多く250g未満」が93人と突出、以下「250gより多く500g未満」から漸減傾向である。

※39件の廃棄内容では、半数近くの16件がごはん。乳幼児のいる世帯であることから子供の食べ残しが原因となっていると推察される。但し、25件以上の大量排出者に同様の傾向は見いだせず、食べ残しの発生には様々な要因が存在すると考えられる。

【食べ残し廃棄件数分布】

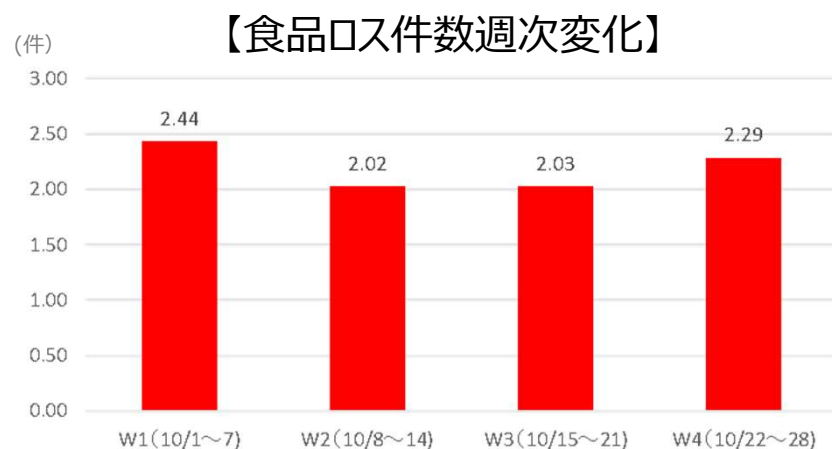


【食べ残し廃棄重量分布】

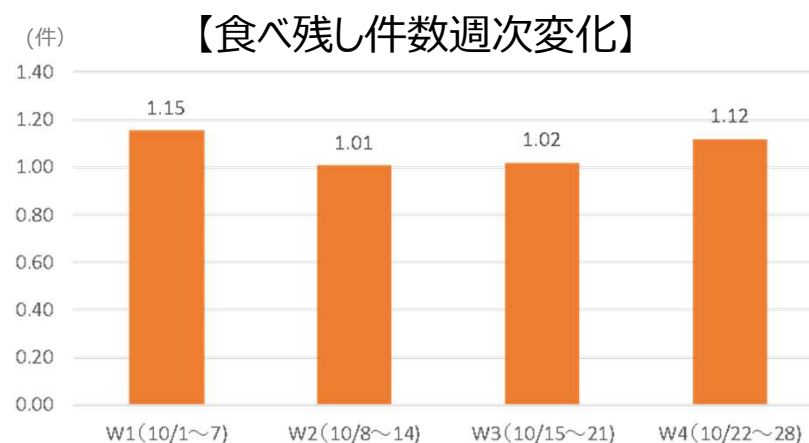
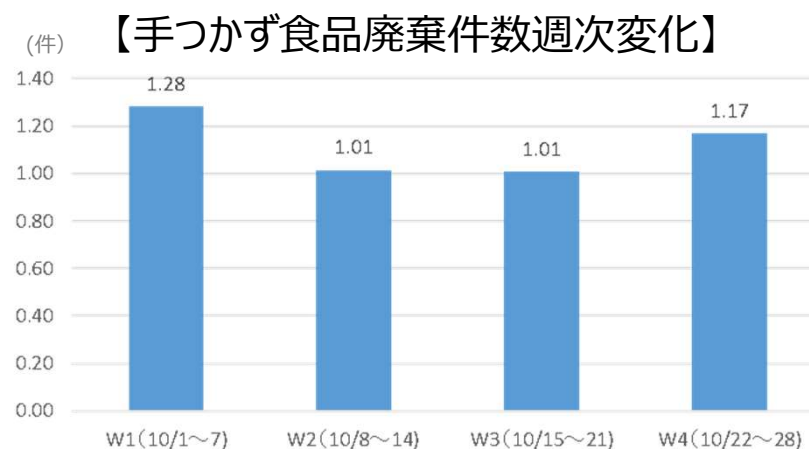


(5) 1世帯平均の食品ロス排出件数__週次変化

- 1世帯平均の食品ロス排出件数の週次変化は、第2週は第1週より大きく減少したが、第3週は第2週とほぼ変わらず、第4週はやや増加している。
- 手つかず食品、食べ残しともに同傾向。

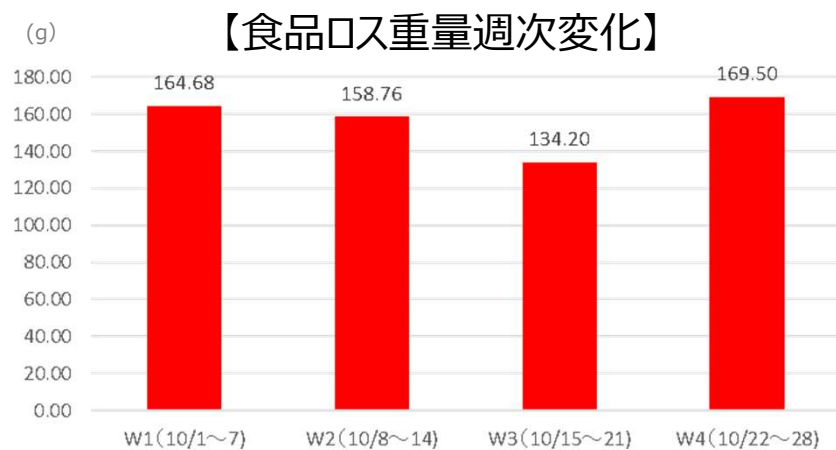


(n=201)

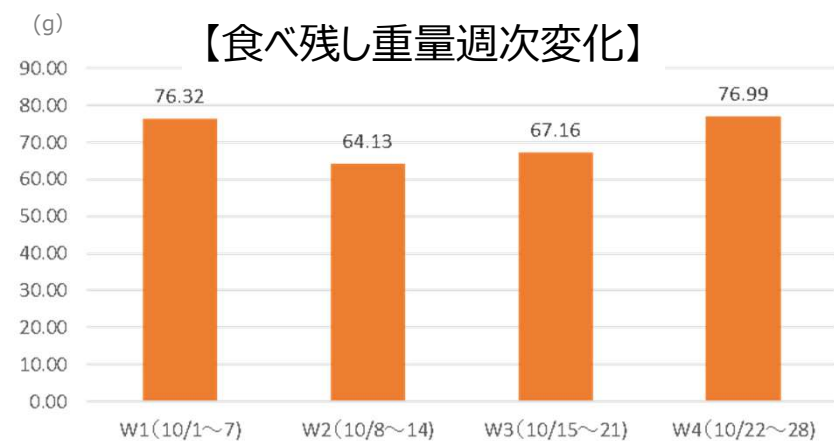
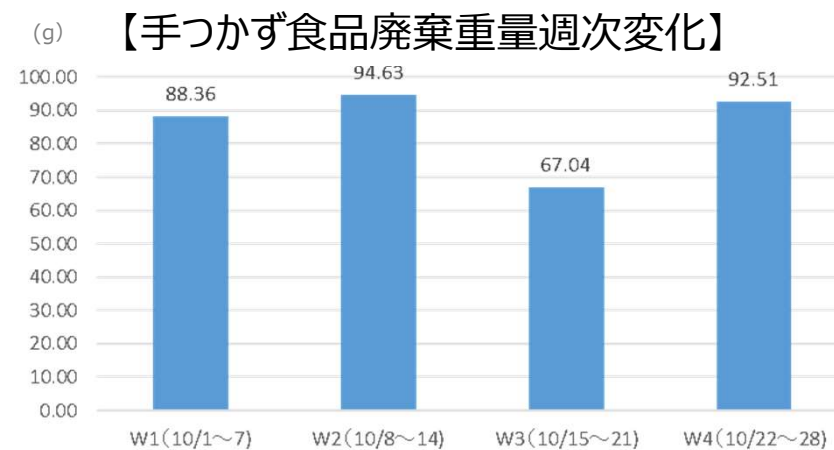


(6) 1世帯平均の食品ロス排出重量__週次変化

- 1世帯平均の食品ロス排出重量の週次変化は、第3週までは漸減傾向にあったが、第4週にリバウンドがみられた。
- 手つかず食品は減少・増加を繰り返している。食べ残しは、第2週は第1週より大きく減少したがその後は漸増傾向。

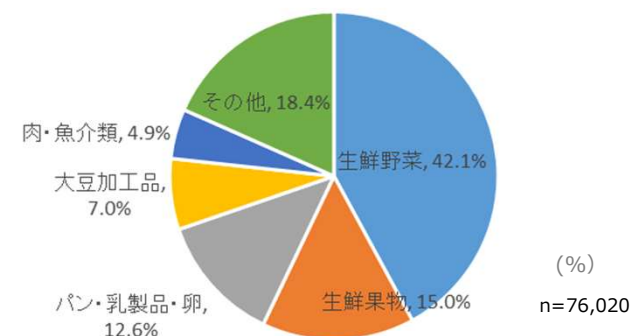
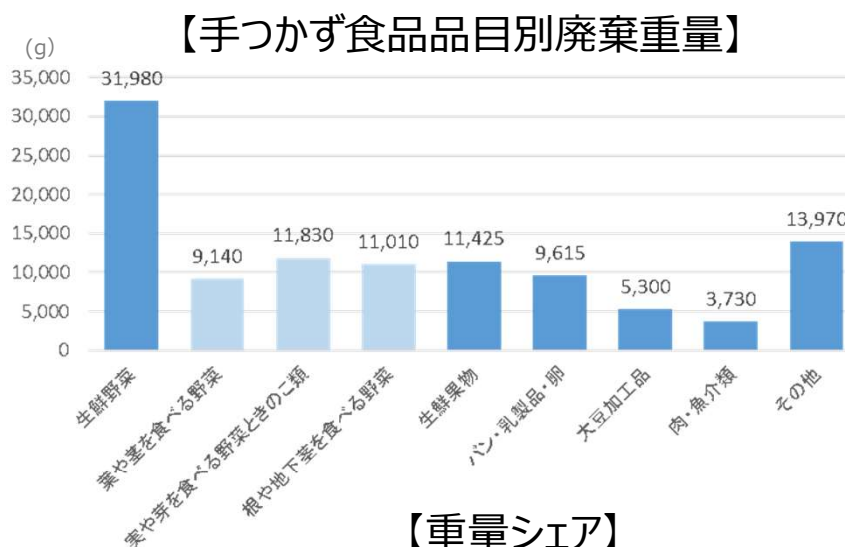
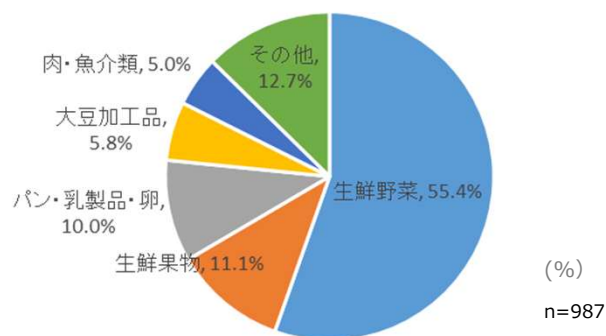
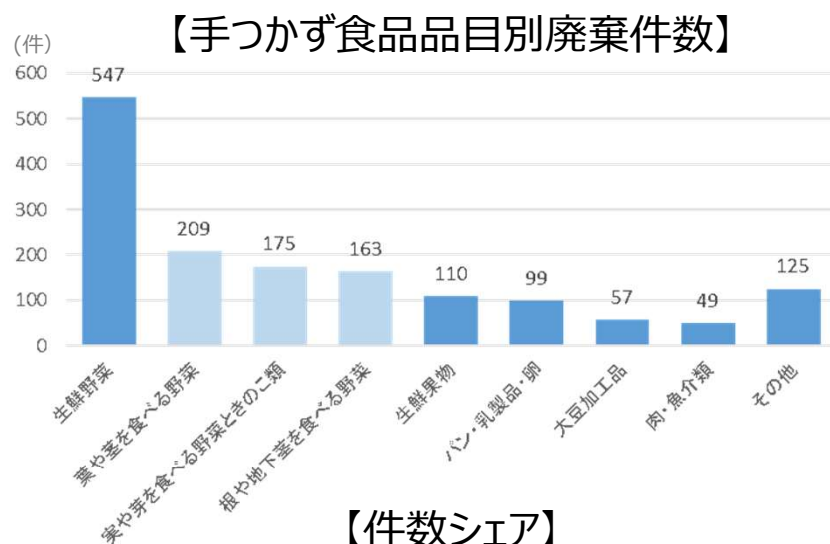


(n=201)



(7) 手つかず食品廃棄の品目別分布

- 手つかず食品廃棄の品目（大カテゴリ）別件数では、「生鮮野菜」が547件と最も多く全体の半数強を占める。「生鮮果物」110件、「パン・乳製品・卵」99件が続いている。重量でもほぼ同傾向だが、「生鮮野菜」のシェアが下がり、「その他」「生鮮果物」が上がっている。



(7-1) 手つかず食品廃棄の食品名分布

- 手つかず食品廃棄の食品名件数では、「キャベツ」「にんじん」「きゅうり」「たまねぎ」など生鮮野菜が上位を占めている。

品目	件数	重量	品目	件数	重量	品目	件数	重量
キャベツ	65	2,245	しめじ	10	540	アスパラガス	3	150
にんじん	39	1,425	バナナ	9	1,235	ほうれんそう	3	130
きゅうり	33	2,800	他の野菜・海藻加工品のその他	9	805	セロリ	3	90
たまねぎ	32	3,010	鮮魚	9	465	生しいたけ	3	90
食パン	25	2,575	チーズ	9	445	アボガド	2	265
他の葉茎菜	25	850	だいこん	9	350	貝類	2	135
みかん	24	2,975	キウイフルーツ	8	1,070	ししとう	2	120
調味料	24	2,415	他の大豆製品	8	865	パイナップル	2	120
豆腐	24	3,320	りんご	8	460	さやまめ（枝豆、そら豆、インゲンなどさやに入ったままの豆）	2	100
じゃがいも	23	1,245	大葉（青じそ）	8	80	エリンギ	2	80
ねぎ	23	970	豚肉	7	695	しらす干し・ちりめんじゃこ	2	80
かぼちゃ	22	2,660	さといも	7	405	ベーコン	2	80
ピーマン	22	1,105	ブロッコリー	7	385	かまぼこ	2	40
はくさい	21	880	みずな	7	375	ラディッシュ	2	20
ヨーグルト	20	1,890	こんにゃく	6	720	牛肉	2	20
柿	20	2,600	油揚げ・厚揚げ・がんもどき	6	365	合いびき肉	1	250
他のパン	19	1,320	オクラ	6	310	チルド肉団子	1	175
納豆	19	750	トマト	6	255	他の加工肉	1	175
ミニトマト	17	570	鶏肉	5	495	サラダ菜	1	90
なす	16	1,305	野菜の漬物（キムチ含む）	5	325	他の魚肉練製品	1	90
他の果物	16	1,065	しょうが	5	190	チルドチキン	1	70
レタス	16	605	他の野菜のその他	5	90	梅干し	1	70
ぶどう	15	720	オレンジ	4	895	他のきのこ	1	50
他の根菜	14	2,400	他の塩干魚介	4	690	ソーセージ	1	30
さつまいも	14	480	油脂	4	380	まいたけ	1	30
もやし	13	1,535	他の柑きつ類	4	285	その他食品	64	8,760
牛乳	12	2,250	ごぼう	4	140			
小松菜	12	735	ちくわ	4	140			
乾物・海藻（干し椎茸、わかめ、昆布など）	12	495	ハム	4	100			
卵	11	920	ゴーヤー	3	350			
長いも	11	915	カット野菜	3	340			
えのきたけ	11	385	他の乳製品	3	215			
れんこん	10	640	パプリカ	3	195			

(7-2) 手つかず食品廃棄の食品名分布・年代別トップ10

- 年代別では、29才以下で「他のパン」「調味料」が、40代で「食パン」、50代で「調味料」がトップ3入りするのが特徴的。

29才以下 (n=11)			
	品目	件数	重量
①	他のパン	4	195
②	にんじん	2	410
②	調味料	2	340
②	柿	2	320
②	他の果物	2	245
②	他の大豆製品	2	215
②	乾物・海藻（干し椎茸、わかめ、昆布など）	2	135
②	食パン	2	80
②	キャベツ	2	60
②	トマト	2	20

30代 (n=50)			
	品目	件数	重量
①	キャベツ	24	820
②	たまねぎ	22	755
③	にんじん	18	385
④	じゃがいも	13	390
⑤	ヨーグルト	10	625
⑥	豆腐	9	1,435
⑥	みかん	9	640
⑧	ねぎ	8	300
⑧	はくさい	8	280
⑧	さつまいも	8	100

40代 (n=79)			
	品目	件数	重量
①	きゅうり	16	1,480
②	食パン	14	1,365
②	キャベツ	14	400
④	かぼちゃ	13	1,730
⑤	にんじん	12	440
⑥	みかん	10	1,380
⑥	柿	10	1,155
⑥	納豆	10	360
⑥	他の葉茎菜	10	260
⑩	ねぎ	9	330

50代 (n=39)			
	品目	件数	重量
①	キャベツ	21	905
②	調味料	10	1,555
③	豆腐	9	1,260
③	きゅうり	9	930
⑤	他のパン	7	630
⑥	他の根菜	5	1,315
⑥	ピーマン	5	210
⑥	納豆	5	210
⑨	食パン	4	980
⑨	他の塩干魚介	4	690
⑨	他の野菜・海藻加工品のその他	4	515
⑨	もやし	4	325
⑨	ねぎ	4	320
⑨	野菜の漬物（キムチ含む）	4	275
⑨	他の葉茎菜	4	200
⑨	にんじん	4	160
⑨	乾物・海藻（干し椎茸、わかめ、昆布など）	4	160

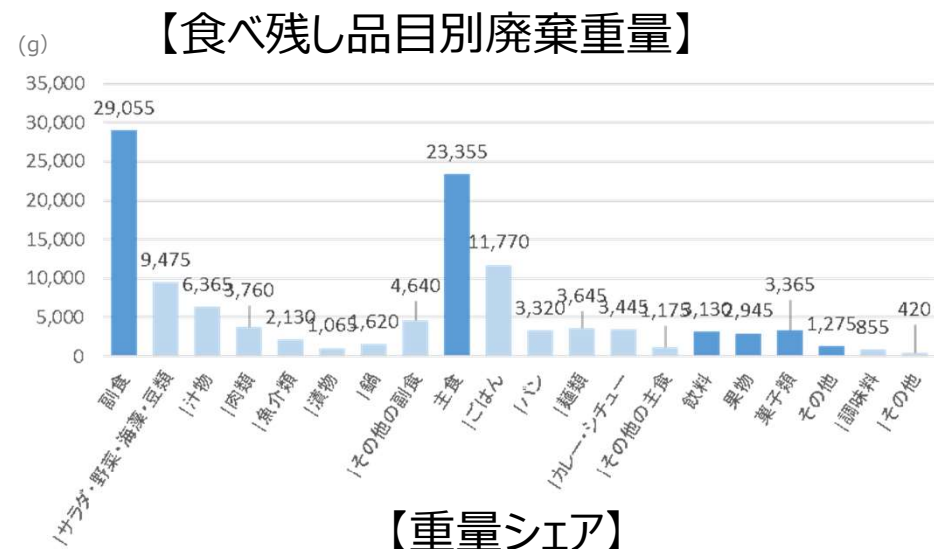
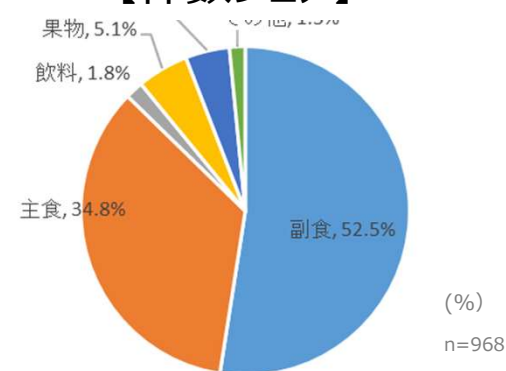
60才以上 (n=22)			
	品目	件数	重量
①	はくさい	6	160
②	他の葉茎菜	5	170
③	キャベツ	4	60
④	にんじん	3	30
④	ピーマン	3	50
④	ヨーグルト	3	390
④	他の果物	3	370
④	他の根菜	3	360
④	えのきたけ	3	90
⑩	たまねぎ	2	20
⑩	みかん	2	180
⑩	調味料	2	185
⑩	豆腐	2	60
⑩	ねぎ	2	20
⑩	なす	2	215
⑩	乾物・海藻（干し椎茸、わかめ、昆布など）	2	80
⑩	牛乳	2	655
⑩	小松菜	2	160
⑩	だいこん	2	40
⑩	ブロッコリー	2	20

(8) 食べ残し廃棄の品目別分布

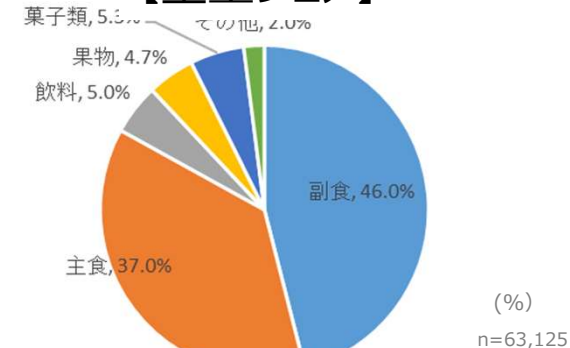
- 食べ残し廃棄の品目（大カテゴリ）別件数では、「副食」が508件と突出して多く、「主食」が337件で続く。小カテゴリでは、「サラダ・野菜・海藻・豆類」337件、「ごはん」171件が目立っている。重量では「ごはん」がトップ。



【件数シェア】

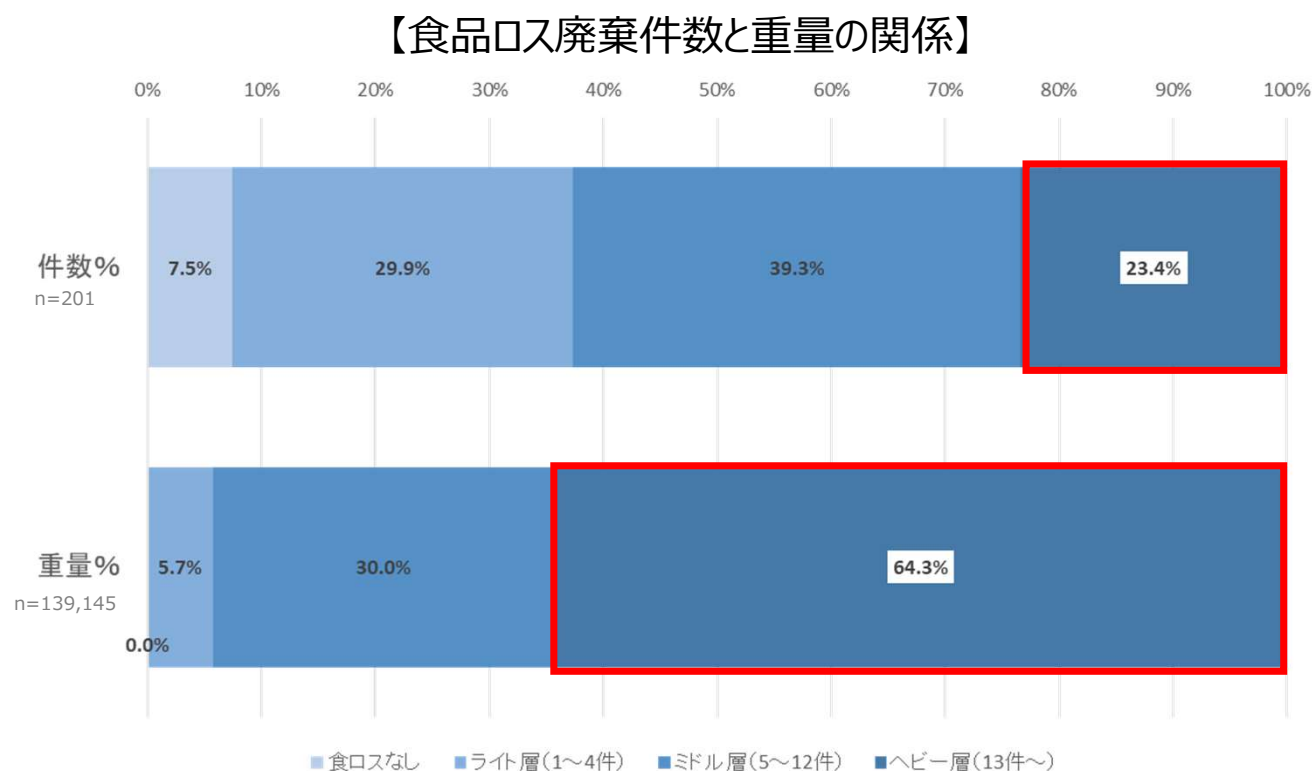


【重量シェア】



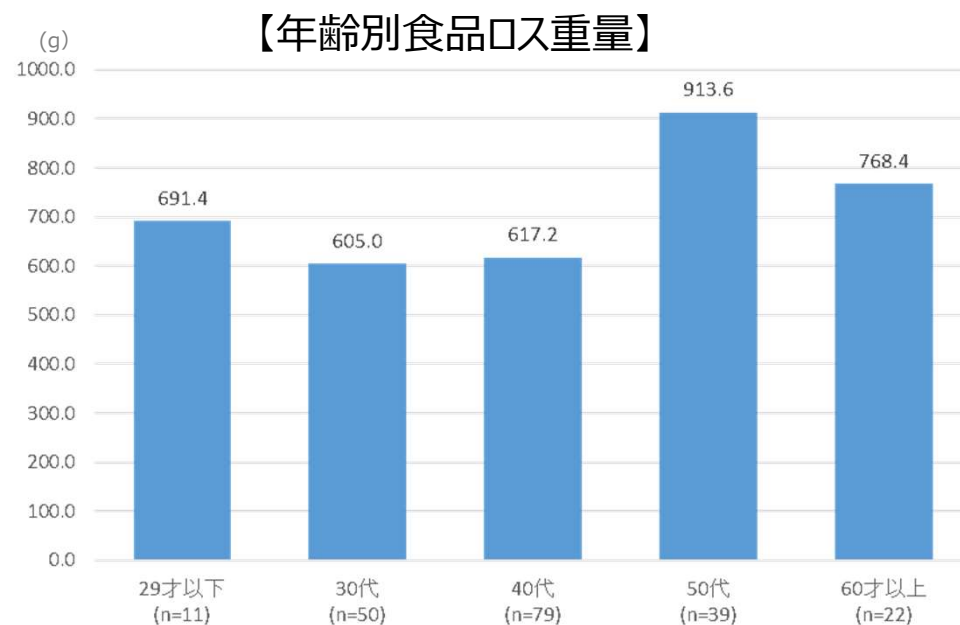
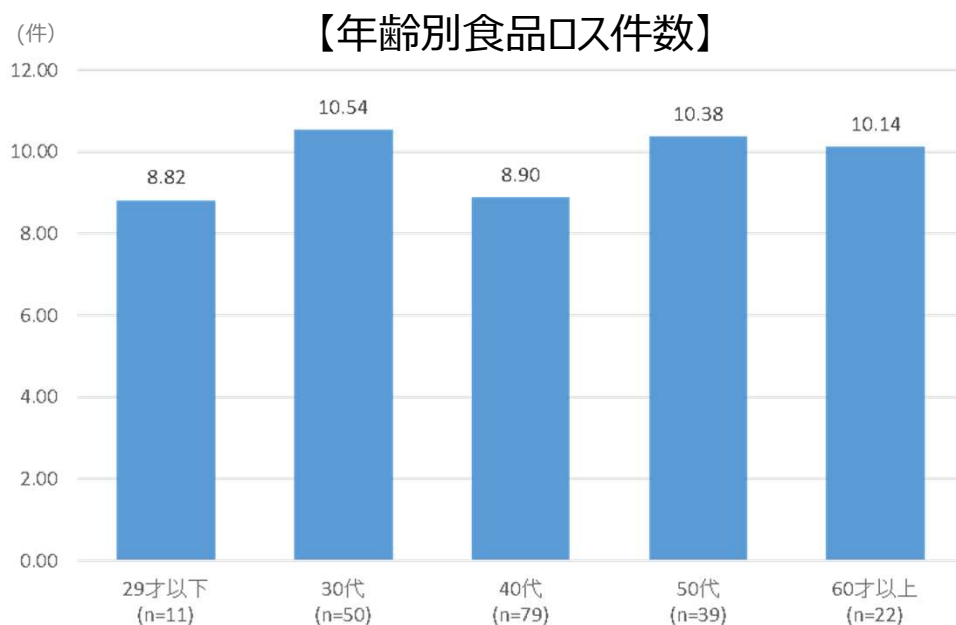
(9) 食品ロス量廃棄機会数の世帯分布と廃棄重量分布の関係

- 1か月の食品ロス件数が13件以上の層は世帯数では全体の23.4%であるが、その層からの食品ロスで全廃棄重量の64.3%(2/3弱)を占めている。



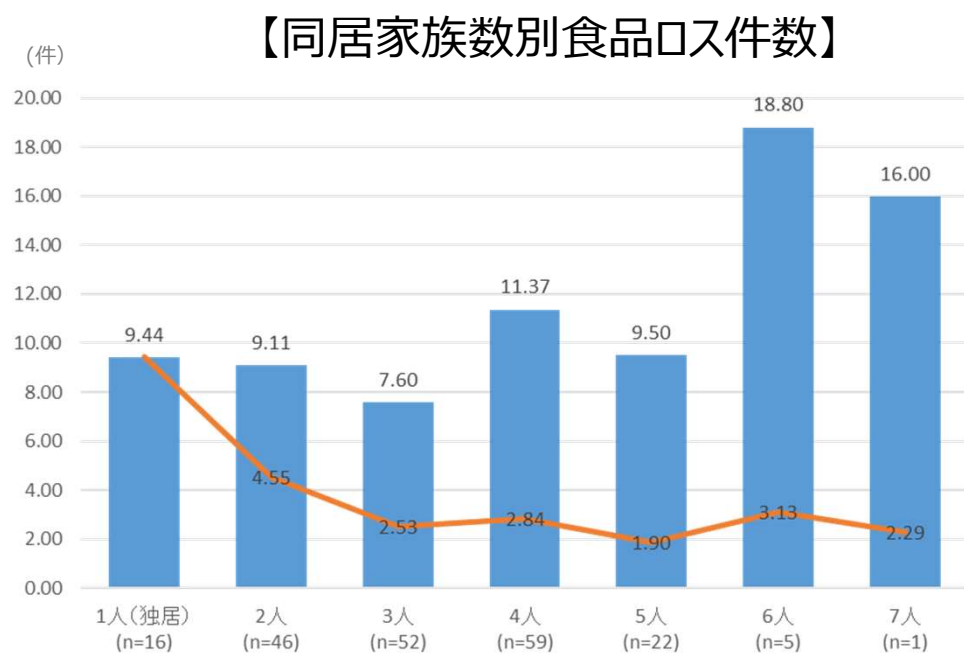
3.属性別食品ロス排出量 (1)年齢

- 年齢別にみると、食品ロス件数平均では30代、50代、60才以上で10件以上となっている。
- 平均重量では、50代で914gと重くなっている。

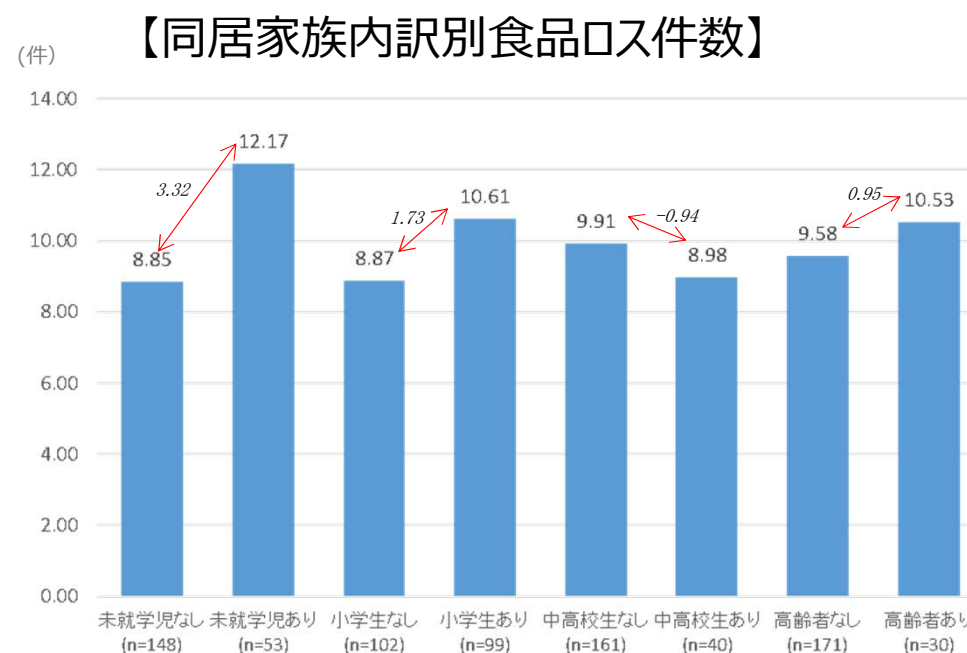


(2) 同居家族数・同居家族内識別食品ロス排出量（平均件数）

- 同居家族数別にみると、同居家族数が増えるほど食品ロス件数も増える傾向（いずれも小サンプルであるのに注意）だが、3人、5人では少なくなっている。
- 但し、一人当たりでみると、独居で9.44件と突出しており、2人も4.55とやや多い。
- 同居家族内識別では、未就学児、小学生、高齢者それぞれありの方が件数が多くなっている。特に未就学児で顕著。逆に、中高生はありの方がやや少なくなっている。



※折れ線グラフは家族一人当たり件数

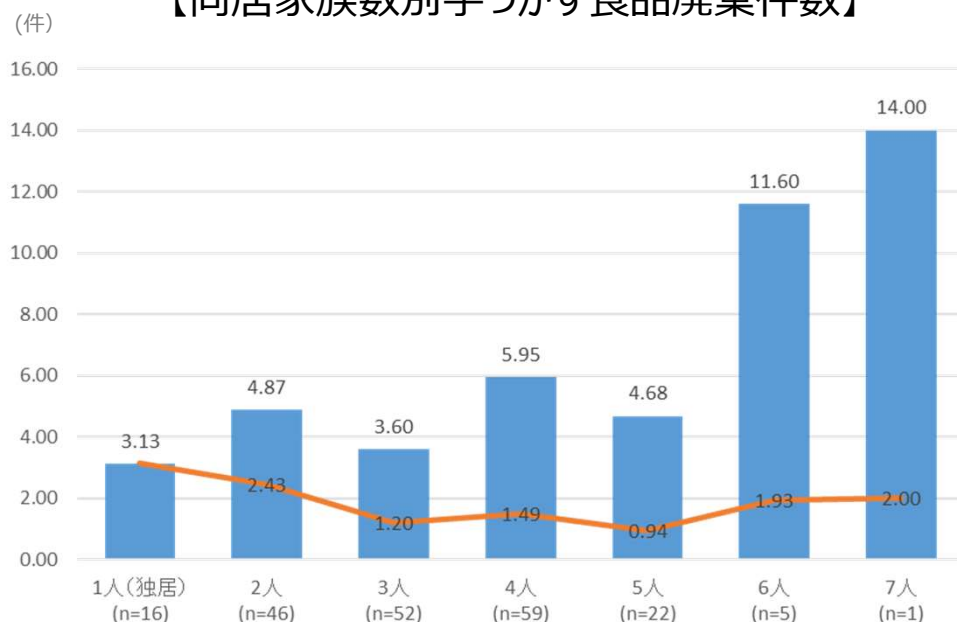


※イタリック明朝数字は、各内訳の「あり」-「なし」

(3-1) 同居家族数・同居家族内識別手つかず食品廃棄件数（平均件数）

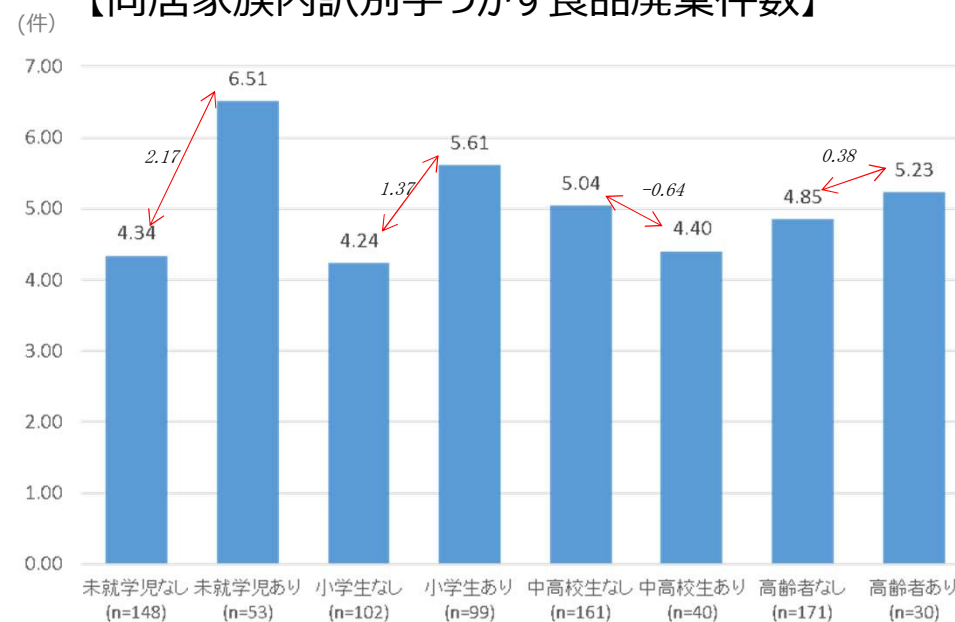
- 手つかず食品廃棄件数を同居家族数別にみると、食品ロス件数同様、同居家族数が増えるほども増える傾向だが、3人、5人では少なくなっている。但し、一人当たりでみると、独居が3.13件と最も多い。
- 同居家族内識別では、未就学児、小学生、高齢者それぞれありの方が件数が多くなっている。特に未就学児で顕著。逆に、中高生はありの方がやや少なくなっている（前頁と同傾向）。

【同居家族数別手つかず食品廃棄件数】



※折れ線グラフは家族一人当たり件数

【同居家族内識別手つかず食品廃棄件数】

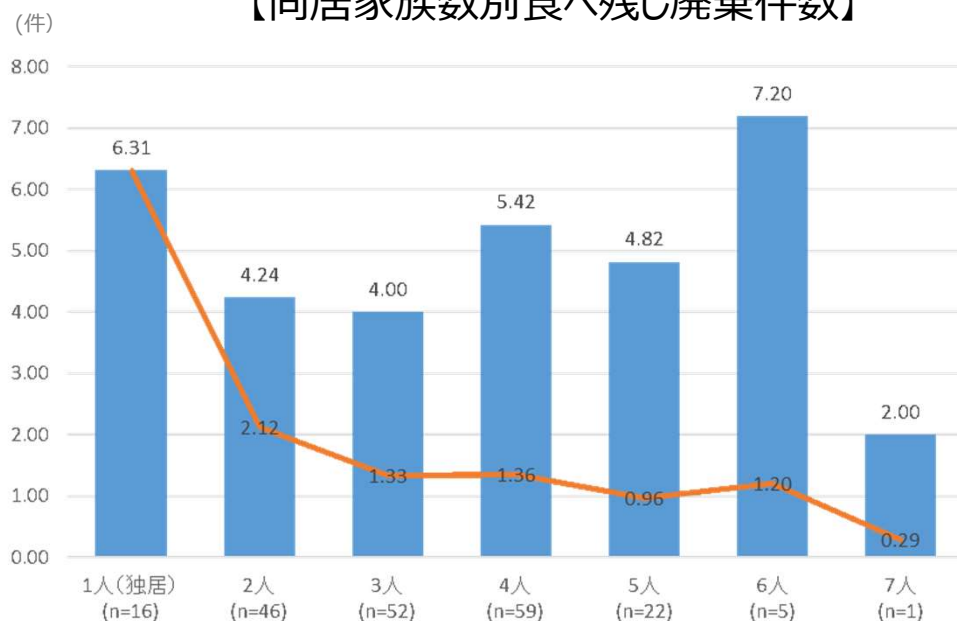


※イタリック明朝数字は、各内訳の「あり」-「なし」

(3-2) 同居家族数・同居家族内識別食べ残し廃棄件数（平均件数）

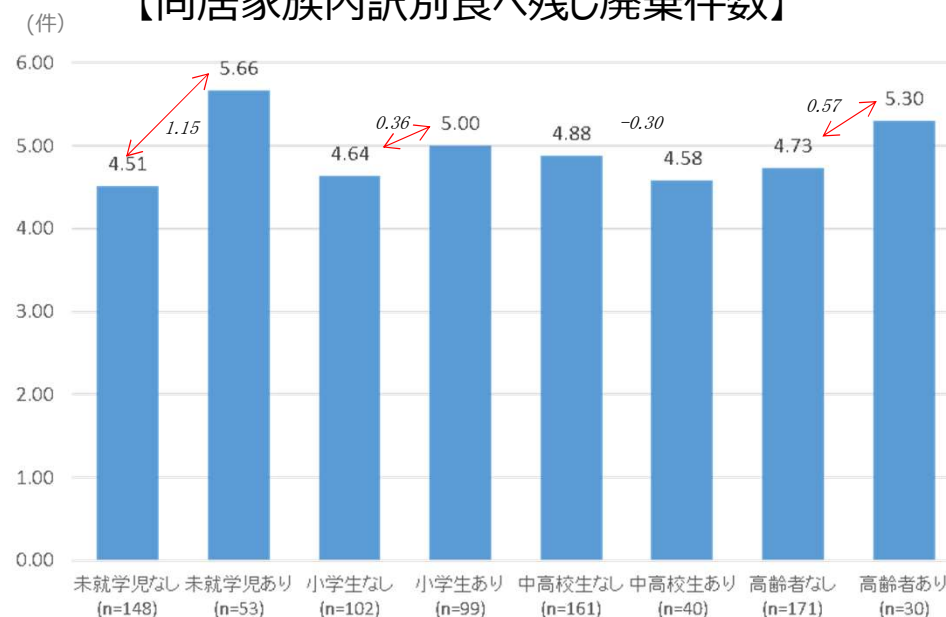
- 食べ残し廃棄件数を同居家族数別にみると、同居家族数4人以上で多い傾向（5人以上はいずれも小サンプルであるのに注意）。一人当たりでみると、独居が6.31件と突出。
- 同居家族内識別では、未就学児、高齢者、小学生それぞれありの方が件数が多くなっている。特に、未就学児で顕著。

【同居家族数別食べ残し廃棄件数】



※折れ線グラフは家族一人当たり件数

【同居家族内識別食べ残し廃棄件数】

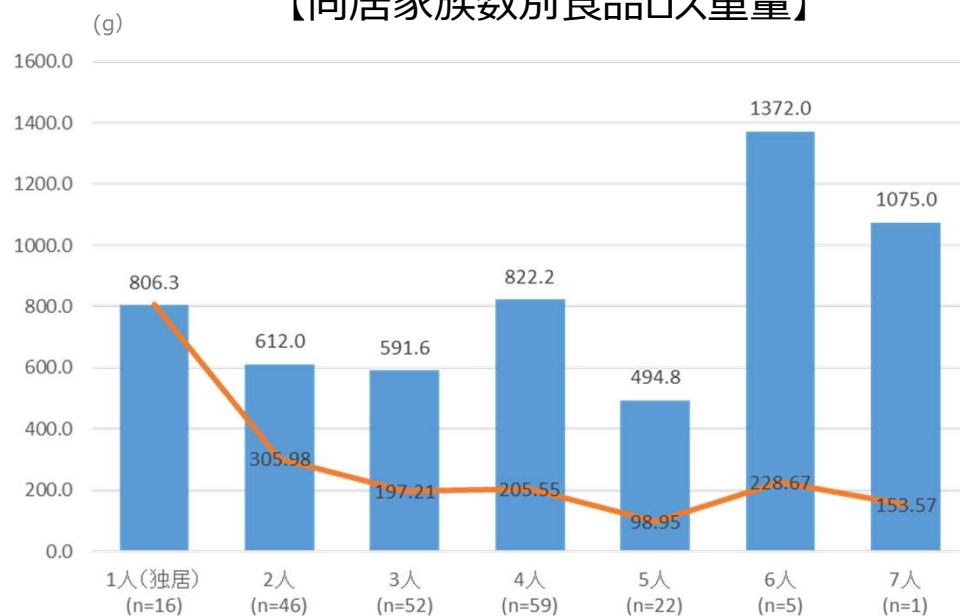


※イタリック明朝数字は、各内訳の「あり」-「なし」

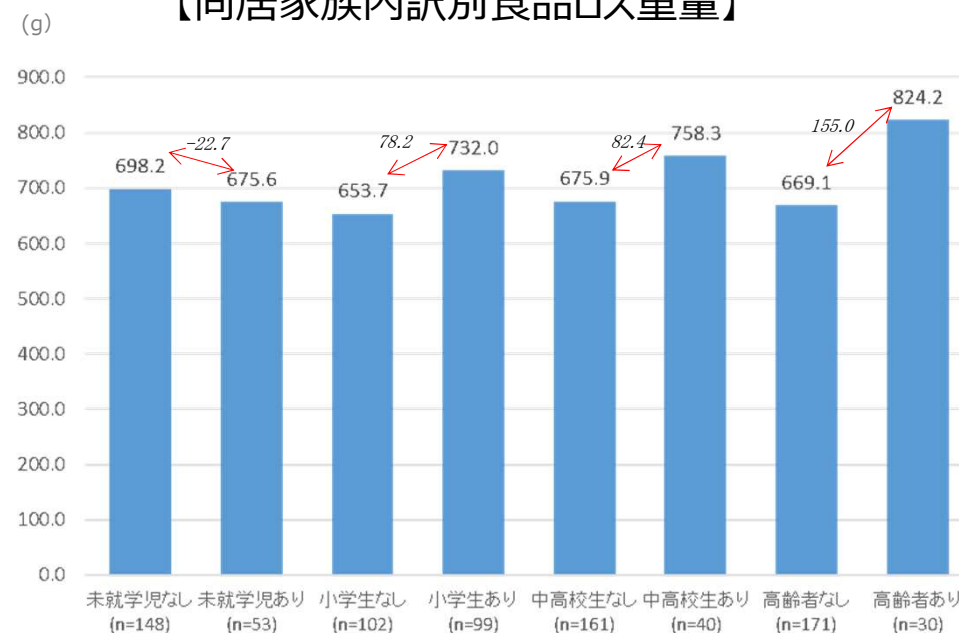
(3-3) 同居家族数・同居家族内識別食品ロス排出量（平均重量）

- 重量でも、2人以上は同居家族数が増えるほど食品ロス重量も増える傾向だが、5人では少なくなっている。（小サンプルであるのに注意）。但し、一人当たりでみると、独居で806.3gと突出している（件数と同様）。
- 同居家族内識別では、未就学児はありの方がやや少なく、件数とは逆の傾向となっている。また、中高生は件数ではありの方が少なかったが重量ではありの方が多くなっている。小学生、高齢者は件数同様、ありの方が重量が大きくなっているが、高齢者は重量ではありの方がなしを大きく上回っている。

【同居家族数別食品ロス重量】



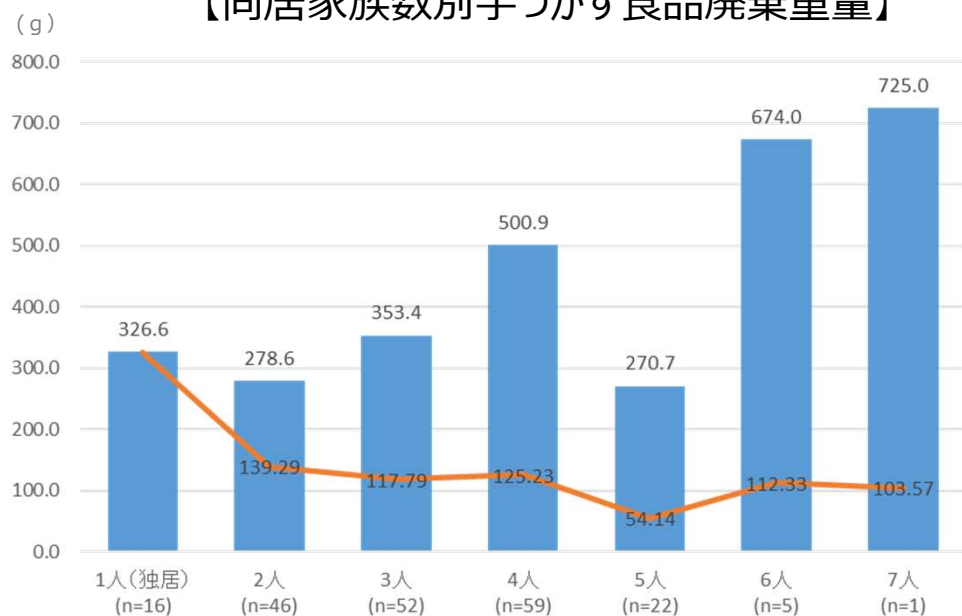
【同居家族内識別食品ロス重量】



(3-4) 同居家族数・同居家族内識別手つかず食品廃棄重量（平均重量）

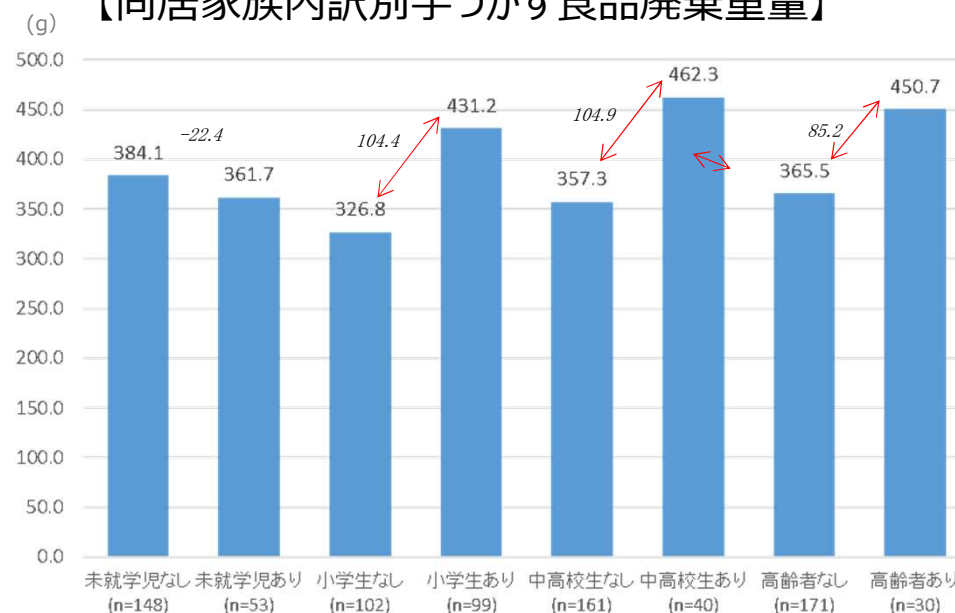
- 手つかず食品廃棄重量を同居家族数別にみると、2人以上は同居家族数が増えるほど食品ロス重量も増える傾向だが、5人が少なくなっている（小サンプルであるのに注意）。
- 但し、一人当たりでみると、独居で326.6gと突出している（前頁、食品ロスと同様）。
- 同居家族内識別では、未就学児はありの方がやや少なく、件数とは逆の傾向となっている。また、中高生は件数ではありの方が少なかったが重量ではありの方が多くなっている。小学生、高齢者は件数同様、ありの方が重量が大きくなっているが、高齢者は重量ではありの方がなしを大きく上回っている。

【同居家族数別手つかず食品廃棄重量】



※折れ線グラフは家族一人当たり件数

【同居家族内識別手つかず食品廃棄重量】

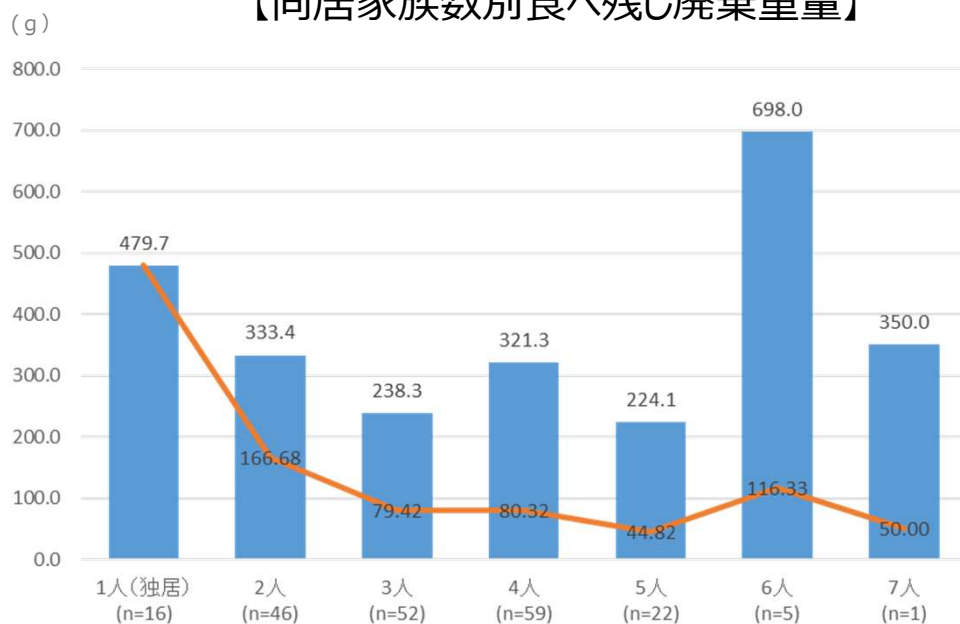


※イタリック明朝数字は、各内訳の「あり」-「なし」

(3-5) 同居家族数・同居家族内識別食べ残し廃棄重量（平均重量）

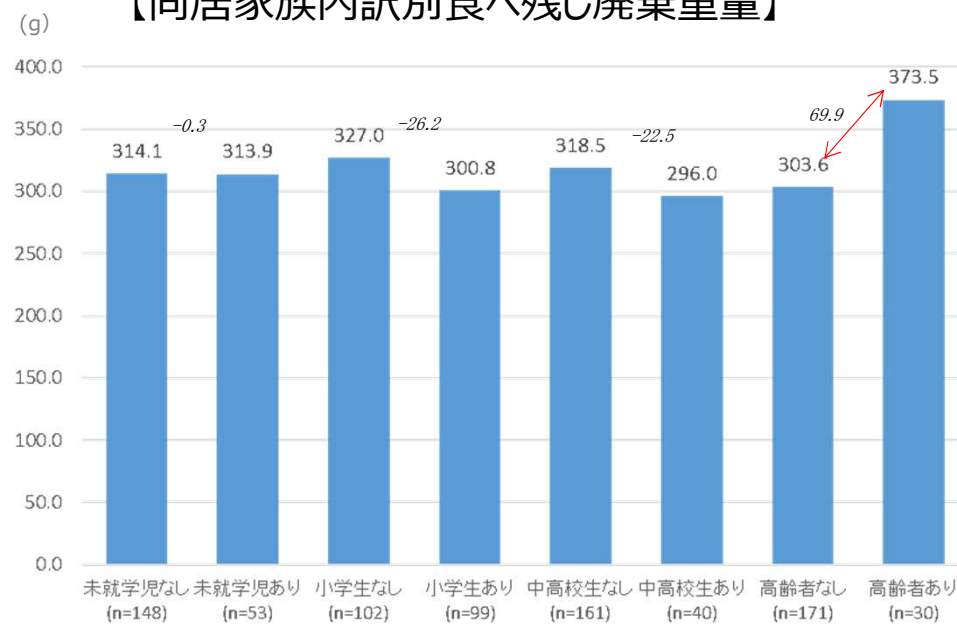
- 食べ残し廃棄重量を同居家族数別にみると、独居の重量が突出して高い（小サンプルであるのに注意）。
- 同居家族内識別では、未就学児、小学生それぞれありの方が件数が多くなっていたが、重量ではありの方が少なくなっている。高齢者は件数同様、重量もありの方が多くなる傾向。

【同居家族数別食べ残し廃棄重量】



※折れ線グラフは家族一人当たり件数

【同居家族内識別食べ残し廃棄重量】



※イタリック明朝数字は、各内訳の「あり」-「なし」

(4) 属性別食品ロスの課題

- 同居家族数4人以上や未就学児・小学生あり、高齢者ありでは、手つかず食品、食べ残しともに件数が多くなっており、いずれにも注意が必要。但し、未就学児、小学生ありでは食品ロス重量は比較的少なくなっている。高齢者あり世帯では食品ロス重量が大きくなっており、対応が必要であると考えられる。
- 独居や60才以上では、手つかず食品廃棄は少ないが、食べ残しが多くなっており、食品ロス重量も多いため、作る量やメニューの工夫が必要であると考えられる。

【手つかず食品件数×食べ残し件数×食品ロス重量】

